8 新たな社会価値創出～データ連携基盤、Green

安全・安心な組織横断のデータ連携の仕組み、IT 領域のカーボンニュートラル実現をめざす

先進コンピューティング技術センタは、高度なコンピューティング技術やオープンソースへの影響力などを武器に、次世代コンピューティングに向けた技術開発や社会実装を支えている。新しいデータ連携の仕組み作り、グリーンな IT システムの実現などに取り組んでいる。

株式会社 NTT データ
技術革新統括本部 技術開発本部
先進コンピューティング技術センタ長
濱野 賢一朗氏

データ連携基盤の実現

企業や業界を超えたデータ連携を安全・安心に実現できる「データ連携基盤（Trusted Dataspaces）」の実現をめざしている。

スマート社会に向けて、多様なデータ連携による高度化が提言されているが、課題が多い。たとえば、複数の企業がデータを持ち寄ることで、個社では実現できない最適化などが実現できることはわかっているものの、相手企業に生データを見せられず実現が進まないなどが挙げられる。一方で、欧州では GAIA-X や Catena-X など企業横断でのデータ連携の仕組み作りが進んでいる。

本センタでは、NTT グループ内や業界団体、他業界の企業と連携しながら、これらの課題を解決し、グローバルな仕組みと相互接続もできるデータ連携基盤の実現を進めている。スマート社会の実現に向けた重要なプラットフォームへと進化させ、経済安全保障を支える技術的な仕掛けのひとつになることもめざす。

IT システム開発・運用における CO_2 排出負荷のものさし策定

カーボンニュートラル・ネットゼロに向けて、CO_2 排出量の可視化や削減の取り組みが加速しているが、IT 領域での取り組みは製造業などに比べ、出遅れているのが実状だ。たとえば、システム開発や運用の排出量をどう算出するか、業界のコンセンサスは十分でない。このままでは、将来 GHG プロトコル Scope3 として、お客様へのシステム納入時に開発・運用にかかる排出量を適切に提示できない。環境省が提示する「原単位」で概算する仕組みはあるが、契約額が一緒であれば、実態・工夫と関係なく決まってしまう。これでは、排出量削減へのインセンティブや競争が産まれない。

そのため、IT システムやソフトウェア開発における排出の「ものさし」を策定する営みを進めている。そのひとつとして、グローバル団体 Green Software Foundation のステアリング企業として活動し、排出負荷の指標 SCI（Software Carbon Intensity）の策定を各社と共同して進めている。検討や実証を進め、グローバル・国内での基準へと昇華させ、IT 領域での排出量削減の努力が適切に評価され、削減努力が加速される社会を実現していきたい。

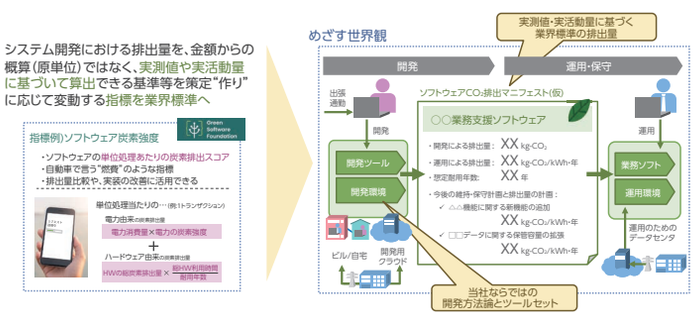

図1　IT システムにおける排出量のものさし策定とめざす世界感